

夢咲かせよう 立志の丘で

平成25年11月28日
No.32

ベンジャミン先生さようなら

アメリカ海軍に入隊するため、帰国することになったALTのベンジャミン先生のお別れの会が、11月20日(水)の朝の全校集会で開かれました。

最初に、私が、ベンジャミン先生がなぜ、アメリカに帰るのか、そしてさよならの言葉を日本語と英語で話しました。続いて、生徒代表のあいさつは阿部倫己さんから、花束は鈴木里歩さんでした。阿部さんのスピーチは次の通りです。

Dear Mr.Benjamine.

I have learned English from you since August. You've very interesting and kind to us.You talked to us with good pronunciation and easy English. In summer,I had a speech contest ,so I was taught from you a lot of things. I could improve my English ,and I had good memory with you.

We are very sad because you are going to leave Akita soon.We will not forget ,so please don't forget us,too. Good luck!! We hope you have a good time in America. We will study English hard from now on. Thank you very much!

親愛なるベンジャミン先生へ

私は、8月以来、あなたから英語を習っています。あなたはともて面白くてやさしいです。あなたは、私たちに良い発音と簡単な英語で話しかけてくれました。夏に、私はスピーチコンテストがありました。それであなたからたくさんの事を教えてもらいました。私は自分の英語を改善することが出来ました。そして、あなたと一緒に良い思い出をつくりました。

私達はあなたがもうすぐ秋田を去るということがとても悲しいです。私達はあなたのことを忘れないので、あなたも私たちのことを忘れないでください。幸運を祈っています。私たちは、あなたがアメリカで充実の時を過ごすのを祈っています。私たちは、これから英語を一生懸命頑張ります。大変ありがとうございました。

鈴木里歩さんも、花束を渡すときに、「あなたのことは忘れません。今までありがとうございました。」と英語で話しました。

ベンジャミン先生からは、日本語でお別れのスピーチがありました。



「まずはじめに生徒の皆さん、先生方私に親切にしてくれてありがとうございました。私は、ALTで皆さんに会えて本当に良かったと思います。突然のことで申し訳ありませんが、私は日本を去ることになりました。私は、アメリカに戻って海軍に入ります。これは私の長年の夢でした。この夢を追いかけようと思います。皆さんはとても最高の生徒です。皆さんも自分の夢を追いかけられるよう、私は願っています。出会ってからまだ日が経っていませんが、私は皆さんのことを忘れません。ありがとうございました。」

この後、会を終わろうとしたら、科学部部长阿部倫己さんから「ちょっと待った!」と声上がり、3年生科学部が、前列に並び、ベンジャミン先生にエールを送りました。



ちょっぴり悲しい顔で退場したベンジャミン先生、アメリカで夢の実現を期待しています。ベンジャミン先生は、11月30日に帰国の予定です。

人権作文コンテストから紹介

11月27日(水)秋田さきがけ新聞に、秋田県人権啓発活動ネットワーク協議会主催「中学生人権作文コンテスト」県大会で、最優秀賞を受賞した中学生の作文が紹介されました。本校でも生徒会執行部が「ありがとうの木」や「いじめに関する集会(執行部員によるロールプレイング)」などを開いて、人権について考えています。他校の中学生は、人権についてどのように考えているのか、を知り、これを機会に人権について考えていただけたら嬉しいです。

思いやりの心で支えてあげたい

横手市立十文字中学校
3年 齋藤 和奏

「今日の昼、何にするんだっけや」
祖母が、息子である父に尋ねる。実はこの質問は、この日七回目だった。

「今日は、回転寿しに行こうと思ってた。」
父が、さも初めて答えるように言う。実はこの返事も七回目だ。そばで聞いていると、笑いたくて口元がムズムズしてくる。

私の祖母は認知症だ。症状が出始めて四・五年になる。二年前に祖父が他界し、それから山形で一人暮らしをしている。

祖母が一人になった時、これからのことについて父と伯父の間では何度も話し合いを重ねたらしい。あまり社交的ではない祖母のことを考えると、「環境を変えずに今までの暮らしを可能な限り続けさせてやりたい」という結論に達し、様々な準備をしたそうだ。

家の中の整理をし、ヘルパーさんやデイサービスを利用しながら暮らし始めた後も、通院、押し売り対策、お金の管理など、いろいろな問題が起きてきた。父が山形まで急に行かなくてはならないことも、度々あった。

『「しっかりしてくれよ、母さん」って言いたくなるときも、いっぱいあったな。でも今じゃだいぶ慣れて、少し楽になってきたよ。』と父は言う。

しかし私は、忙しく動き回る父をただ見ているしかなくて、それでいいんだろうか、とじれったい思いを感じていた。離れて暮らしてあまりなじみのない祖母ということもあり、施設に入れた方がお互いのためにいいのに、とさえ思っていたのである。

今年の夏、数か月ぶりに祖母の家を訪ねた時のことだ。祖母は私と弟の名前を思い出せなかった。とてもショックだった。

一緒に食事に出かけるときも、バッグが見当たらずに、じれったくなった。でも父は慣れたもので、見当をつけた場所を探して見つけ出す。「明日のご飯は炊かなくていい」と言っても忘れて炊いてしまうから、父と母で炊飯器に貼り紙をする。そうすると、炊かないのだそうだ。翌朝は穏やかな朝食を迎えた。

感心しながら親の行動を眺めていて、私はチクリと胸が痛んだ。今年は宿題に追われていて、ろくに手伝いをしていない。こんなことでいいのかなあと思いながら机に向かっていたら、母が言った。

「おばあちゃん、うれしそうだね。」

「えっ、何が？」

「和奏がおばあちゃんに声かけた時のことだよ。『お風呂上がったよ』とか『おやすみ』とか。当たり前なことだけど、それってなかなかできないことだよ。和奏が声をかけていたとき、とてもうれしい顔してたよ。」私は驚いた。

それから私は、意識して祖母に声をかけるようにした。そんなに会話は続かないけれど、表情の乏しくなった祖母の顔には、輝く笑顔が見られるようになった。

その時、ふと思った。たしかに祖母は認知症で、今話したことも少したてば忘れてしまう。でも、心まで壊れているのではないのだ。だから、一人の人間として大切にされたいの

だ、と。

世の中では、独居老人の孤独死や、老人ホームでの虐待のニュースが時々流れる。弱い者は、老人だけではなく、人権を侵害されたり切り捨てられたりする立場にいる人たちである。憲法で人権を保障されてはいても、現実には簡単にはいかない。忙しいから、手がかかるから、面倒だから……理由はいろいろあるだろう。何より、「人権」は目に見えない。見えないものを大切にすることは、難しいと思う。

けれど、「人権」は「人間」の数と等しく存在している。そして誰もが、自分の「人権」を傷つけられることを望まないだろう。だから、見えない「人権」を大切にするには、自分のことのように相手を「思いやる」心が必要になるのではないだろうか。

祖母の場合は、今の状態を理解し、祖母らしく生きることを支えてくれる人や応援してくれる人がいる。祖母もそれが分かっているから、不安がらずに生活できるのだろう。

今の生活がベストなのか、また、いつまで続けられるのかは私にはわからない。でも私は、「祖母の暮らしができる限り続けられるように応援したい」と考えを変えた。

私はこの夏、祖母の姿から大切なことを学んだ。人間は何歳になっても、記憶が薄れても人として扱ってほしいと願っていること。そして、私にもできることがあるということ。私の身近なところから、思いやりの一歩をはじめよう。たとえ小さな一歩でも、たくさん集まれば大きな力、大きな支えになると信じて進もう。一人ひとりの「人権」が尊重される社会を目指して。

「何年生になったのや。」

祖母が聞くのは四回目だ。でも今の私は何度でも笑顔で答えられる。

「中学三年生だよ、おばあちゃん。」

◎ 草薨杯バレーボール大会(仙北ふれあい体育館, 大曲体育館)

11月23日 予選リーグ 1勝1敗 2位

西仙北2 (25-15,25-20) 0角館

西仙北0 (13-25,15-25) 2仙北

11月24日 決勝トーナメント

西仙北1 (12-25,25-19,22-25) 2 桧木内

◎ 第42回全県中学校招待バスケットボール五城目大会五城第30回畑沢正作杯バスケットボール大会

5校リーグ戦 3勝1敗 準優勝

西仙北73-36桜

西仙北39-43湯沢北

西仙北66-58五城目第一

西仙北60-53八竜

